

# 令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月10日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者数:33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>住民自治組織として、地域住民の安心安全あってこそ地域づくりである。暮らしてよかったというのが誉め言葉であり、子どもたちにもそのように言ってほしい、という気持ちで地域づくりに励んでいる。地域を持続させていくことが、今の使命だと思っている。</p> <p>三次地区の防災問題・内水対策について伺いたい。</p>	<p>三次地区の願万地や中所で、内水被害が出てきたが、この地域には、ポンプを常設するとともに、可搬型ポンプの設置や、排水ポンプ車の運用によって、内水被害を抑えるための対策をとっている。また、雨水貯留施設を作っているが、今後、もう一つ建設予定である。想定外の気象災害が発生していることを考えると、三次でもそういった災害を想定し、自分たちの命は自分たちで守るという地域の皆さんの防災意識を高めていくことが、防災・減災につながると思う。昭和47水害から50年の節目を迎え、ショッピングセンターにおける当時の写真展示や、市ホームページでの写真公開など、当時の記録・記憶に触れていただくことで、後世に継承していきたい。自主防災組織や消防団の皆さんと連携し、情報発信もしていく。</p>	
<p>拠点施設「三次もののけミュージアム」を中心とした地域づくりとして4年目になるが、住民や観光客の歩行などの安全面について聞かせてほしい。</p>	<p>通行者の安全対策については、これまでも地元の方から要望をいただいていた。専法寺の前から妖怪博物館に向けた通りや、家が密集して道路を広げられない場所などでは、制限速度30キロである「ゾーン30」を設置した。現在、大きな事故はないが、リスクがなくなったわけではない。今後も、皆さんと協議しながら、安全な道路づくりを進めていきたい。</p>	
<p>交流館は賑わい創出としての場であると認識しており、運営方法について伺いたい。</p>	<p>妖怪博物館の運営方法は、当初は市の直営であったが、民間委託も含めて運営していく必要があり、今はDMO(三次観光推進機構)が指定管理している。地域の皆さんと協議したり、観光事業者と連携するなどして、さらに皆さんに受け入れてもらえる施設にしていきたい。日本でここにしかない施設であり、賑わいを創出するため、色々な活用方法を民間事業者と一緒に検討していきたい。</p>	
<p>三次地区では、コミュニティスクールと三次小学校の建替計画が始まったところである。この点について伺いたい。</p>	<p>・三次地区では、コミュニティスクールのモデル地区として、地域と学校、各関係団体が一緒になって取組をしていこうとされている。</p> <p>・コミュニティスクールでは、子どもを地域ぐるみで育てる。また、地域にとっても良い取組にさせていただくという目的のもと、モデル地区として進めていただいている。三次小学校の改築については、調査の結果、最も劣化状況が進み、喫緊の対応が求められることがはっきりしたことから、計画的に整備していく。これまで、校舎を建て替える必要性について地域住民の方々に説明をさせていただいてきた。これから一緒に協議をさせていただきながら、これからの学びの場として、子どもたちに配慮した場所であると同時に、地域とともにある施設にしなければならない。子どもの安全な居場所づくりのため、新しい校舎に児童クラブも整備していくという方針であり、今後、一緒に考えながら、実現に向けて進めていきたい。</p> <p>子どもたちは、20年後、30年後の地域の担い手として育てていかなければならず、地域の社会的な課題にしっかりと向き合わせていく必要がある。地域の方にも、子どもたちに地域の課題を見せてやってほしいし、一緒に取り組ませていただきたい。</p>	

# 令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月10日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者数:33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>旧三江線や、尾関山の活用などについて、今後どう考えているのか。</p>	<p>・旧尾関山駅の活用については、民間事業者にヒアリングを行ったこともあるが、妖怪博物館や三次町の本通りにつなげるなど、活かし方次第では、大きな可能性を秘めている。色々な意見をもらうことで、旧尾関山駅にしかできない取組を展開したい。          ・一般社団法人みよしSL保存クラブが、レールウォークや、トンネルの中に物怪映像を投影したりするなどの活用をされた。市は、JRからの譲渡後、落石防止の安全対策、雑草対策などの環境整備を計画している。近隣住民の方には回覧させていただいたが、7月から9月にかけて測量をし、11月から来年の2月に環境整備の工事を実施する予定であり、ご協力をお願いする。</p>	
<p>稲荷町グラウンドは、小・中学生が野球やサッカーなどで使用しているが、水害時に必ず浸かる。安定的に子どもたちがスポーツに励める場所として残してほしいと思っているが、防災の観点等を踏まえて、今後どのように考えているのか。</p>	<p>稲荷町のグラウンドについて、近年、毎年のように浸水している。今まで全面復旧していたが、別の視点で考える必要があるのではないかと検討を重ね、完全復旧しないという方針を出した。しかし、現在でも活用されているので、グラウンドが利用できるように、最低限の整備はしている。代替地について、特に、中学校のクラブ活動が制限を受けないように検討を進めている。子どもたちの夢や目標を阻害することのないようにしたい。</p>	
<p>仕事の合間などで、住民自治組織の活動をしてもらっている。市職員は、職員としてではなく、市民として地域の役を担うなど、地域づくりに携わってほしい。</p>	<p>職員の地域活動への参加については、これまでも積極的に参加するように促してきたが、今後も促していく。</p>	
<p>今年の5月、比熊山に東屋を立て、東屋から見える展望に、「こんなに美しいのか」と好評である。          市が、比熊山の頂上に植樹したことがあると聞いた。既に50年以上経って、木が育っていることから、管理をして、活用してほしい。          山家町側から上がる道を途中まで作ってもらっているので、頂上まで行けるように整備してほしい。</p>	<p>新たな資源が、三次に増えたと思う。東屋から素晴らしい風景を見ると、ここには人が訪れるのではと感じた。          山家町側からの道の整備については、具体的な計画はないが、地域の思いのこもった東屋になっていることから、妖怪博物館やたたり岩を含めて、今後の利活用を協議させたい。</p>	
<p>校舎改築や給食センター建設を心待ちにしている。地域の人と一緒に子どもを育てる、コミュニティスクールのモデル校として選んでもらい、ありがたいと思っている。          DX(デジタルトランスフォーメーション)の関係で、子どもに一人1台のタブレットが支給され、楽しみながら勉強できている反面、子どもに新たな負担がかかっている。ランドセルが重くなっている。約7kgから8kgあり、体の小さな子どもからすれば、過酷な重さである。今使用している紙の教科書を、1日も早くデジタル教科書にしてほしい。</p>	<p>教科書自体も厚くなったり大きくなったりしている。教材以外にも、絵具道具や体操服、給食着などもある。先進的に、デジタル教科書を一部で実証的に使用している学校もある。しかし、負担が減っているという一方で、全てがデジタル化すれば力がつくかどうかについては見極める必要がある。デジタルと、実際に読み書きできるものとを、効果的に融合させることが必要であり、整理していきたい。          今まで、基本的に家に持って帰るという指導をしてきたが、今はできるだけ学校に置いていいものは学校で保管をするなどの工夫をしている。これからも工夫しながら、過度な負担にならないように進めたい。</p>	

# 令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月10日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者数:33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>みんなにやさしいデジタルの推進と言われているが、パソコンを持っていない高齢者は多く、デジタル申請ができないことから、書類申請も続けて欲しい。</p>	<p>デジタル化を一気に進められるわけではない。また、デジタルによって、市民の皆さんにとって、全てが便利になるとも思わない。デジタルは、あくまでも、利便性を高めるための一つの手段であることを、ご理解をいたくよう、市民の皆さんに伝えていきたい。色々な機会を通じて、わかりやすくお伝えし、また、今まで社会的になかなか解決できなかったことを、デジタルで解決できることも説明しながら、進めていきたい。</p>	
<p>市民にとって、わかりやすい行政が望ましいと思う。最近、横文字が増えて、市役所に行っても横文字で言われることが多い。市民目線で、わかりやすい日本語を使って、わかりやすい開かれた行政にしてほしい。</p>	<p>確かにわからない横文字もあり、日常的に検索して調べている一方で、日本語になっているカタカナもある。どこまでかみ砕いて日本語にするかという点もあるが、市職員は特に、わかりやすい言葉を使うように心がけていきたい。また、ケーブルテレビで議会中継を見ている方にも、わかりやすく説明できるようにしていきたい。</p>	
<p>給食費が今後どうなるのか、心配している。PTA役員をしていた際に、役員会の中で、給食費を払えない家庭があり、督促しても払ってもらえないという議題が上がっていた。「食育」と盛んに言われているが、学校給食費も義務教育の一環として、無料化が基本ではないか。払えない家庭の子どもたちが、自分の家は払っていないが食べていることを知ると、学校に行きづらい、あるいは、いじめの対象になるのではないか。この度、学校給食調理場ができることで、同じものを等しく食べることは素晴らしい。その一方で、義務教育の中で、払わなくてもいい、安心して食べてよいという位置づけをして当然ではないか。このことを、市単独でやることは財政的に厳しいと思うので、一部無償など、子どもたちが差別を受けないで、等しく勉強もできるようにすることが大事なことである。すぐにできることにはならないと思うが、検討をお願いしたい。</p>	<p>・生活困窮の状況があれば、就学援助費、生活保護費制度を利用して、給食費が支給される。三次市としても援助している。また、学校給食法に従い、給食調理場の設備や運営は、市が責任を持ってやるが、子どもが食べるものについては、保護者が負担するという前提があるのをご承知おきいただきたい。それを踏まえたうえで、援助などを行っているという現状がある。コロナにより、食材や光熱水費などの経費が上がっており、以前と同レベルの給食を提供することが厳しい状況が続いている。コロナ臨時交付金を使用し、市の全調理場やデリバリー給食に対して一人当たり1食10円を支援して、これまでと同じレベルの栄養がとれるように手当てしている。保護者の負担をこれ以上増やすことのないように、最大限の努力をしているが、全て無料にするということになれば、一般財源から、かなりの支出をしなければならぬ。継続的にできるのかなどを含めて考えなければならない。</p> <p>・学校給食の無償化について、全国で導入しているのは一部の学校のみである。無償化については、検討しなければならないことが多く、本市における無償化は、現段階では考えていない。現在、給食費はそれぞれの学校で徴収しているが、公会計化についても検討している。学校には負担をかけており、公がしっかりと責任をもって集めるべきであるということも課題としてあがっている。給食費の扱い方については課題があり、取り組んでいく必要がある。</p>	
<p>太歳神社にあるトイレについて、完成当時は、新聞などで良いイメージに書かれていた。実際は、冬には水が凍るし、暗く、電気がつかない。防犯の観点から照明をつけてほしい。また、雨や雪で使えないという状況は困るので、屋根を作るなどの改修をしてほしい。</p>	<p>太歳神社のトイレに関する要望については、承知している。今後、検討していきたい。</p>	